

仏教法話

—心のひかり・人生のしるべ—

おもいやり



新型コロナウイルス

新型コロナウイルスは、どこからやってきたのでしょうか。世界中にウイルスは何兆の何兆倍もといえるそうです。ウイルスは、自分だけでは生きていきませんから、何かの生物に住み着いています。生きていけるといふよりも、増殖力だけをもって潜んでいると言つても良いでしょう。

新型コロナウイルスは、蝙蝠の中に住んでいたと言われています。あるウイルスはセンザンコウの中に潜んでいたそうです。ネズミや様々な動物の中にもウイルスは潜んでいるそうです。動物たちはもともと抗体を持っているのでしょうか。免疫力が強いのでしょうか。新型コロナウイルスが潜んでいても（感染しても）人間のように死ぬようなことはないのです。

それらの動物や蝙蝠は深い森の中や人間が住めない山奥に住んでいました。それが開発や環境汚染や乱獲で人間が自然の中に入っていく、産業や経済の発展を名目にして森を壊した結果、動物もウイルスも人間の世界に出てきてしまったのです。コロナは人間と交わりをもつことにより、人間の体内に入り爆発的に増えました。最初は一人の人間に住み着いたウイルスは、良い増殖環境を得たとばかりに、一年八カ月後の今は二億人ものが感染してしまいました。ウイルスはDNAの並びが変わると簡単に変異します。ウイルスがたくさんあれば変異種も増えます。爆発的に増えたウイルスにより感染力の強いデルタ株も出現しました。

謙虚な心

ある医療者に聞きました。医療の世界では、ウ

イルスによる伝染病が歴史上度々起こってそのたびに大勢の人が死んでいることを知っていましたので、新興感染症は今後また起こることがあるから、常に注意していきなさいということが言われていたそうです。ウイルスは、人類より先に地球にありました。三十億年前に地球上に生物が出現すると同時にウイルスも出現したといわれています。生きる力は人類より強いのです。どんどん形を変えて生きます。人類は万物の霊長といって威張っていますけど、よく考えると人類は一番弱いんです。コロナで人は死んじゃうんですから。逆にコロナは人間の中で増えていくんです。そういう意味でも、人間は驕ってはいけません。コロナ禍は、人間にとってすごくいいチャンスだなあと思います。人間が改めて自分の生き方を考えなければならぬ良い機会なのです。

他人に対する思いやりはもちろん、自然に対す

る思いやりとか、あるいは地球全体を考えるように生活を改め、環境汚染や温暖化を含めて、それらのことを考える良い機会ではないでしょうか。

改めて私たちは今の生き方を変えなければなりません。自分さえよければと言っつ心を捨てて、利他心のおもいやりを自然とか環境にも向けて、お互いに助け合うとか、国と国が平和で仲良くするとか、そうしなければなりません。コロナ禍は日本人が正気に戻るいいチャンスとある作家が言っていたそうです。ウイズコロナで生き方を変えることができれば、地球全体や人類全体に思いを馳せ、世界の平和はもちろん、環境汚染に目をやり、生きとし生けるものに心を寄せ、心を変えることにつながるでしょう。

コロナの騒ぎは、ワクチンのことを言っていますが、本当は自分が悪いんだと反省すべきでしょう。日本だけでなく、世界が反省すればいい

でしょう。

ウイルスはなくなりません。人の体で増殖できなくなる、遺伝子構造を変えてしまうんです。それによりさらに強いウイルスが発生します。それがまた新興感染症になるでしょう。このようなことの繰り返しではないでしょうか。

おもいやり

金子みすゞさんの有名な詩に「大漁」があります。

大漁

朝焼小焼けた

大漁た

大羽鱈おおばいわしの

大漁た

浜は祭りの

ようだけど

海のなかでは

何万の

鱈のとむらい

するだらう

（金子みすゞ「大漁」の詩は『金子みすゞ童謡全集』

（JULIA出版局）を典拠とする）

おもいやりとは、このようなまなざしを持ち、生きとし生けるものに心を寄せることではないでしょうか。

コロナ禍は私たちに心のあり方を顧みる機会をくださいました。おもいやりをひろめましょう。美しい地球にひろめましょう。それは、人類も地球も救うでしょう。